

令和5年度 林業試験研究推進計画書

1 課題名	(大項目)	原木生産の拡大		
	(小項目)	皆伐と再生林の促進		
	(課題名)	成長の早い苗木を用いた再生林低コスト化に関する研究		
2 研究期間	平成31～令和5年度	3 総括責任者	森林経営課 藤本 浩平	

4 背景と目的

全国的に原木の増産が期待されており、高知県においてもスギ・ヒノキ人工林の77%が45年生以上の主伐可能時期に達している。産業振興計画では平成37年度の原木生産量を90万m³まで増加させることを目標にしており、皆伐の増加とその後の再生林が必要である。しかし、高い初期保育経費が障害となり、皆伐への不安や再生林が行われない森林が多くなるなど健全な森林育成が危惧される状況になっている。

これまで、伐採-造林一貫作業システム、植栽可能期間が長いコンテナ苗の活用、下刈りの省力化の実証研究が行われ、実用出来る段階になってきた。このような中、平成25年に改正された「森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法」に基づき特定母樹の採種園が整備されはじめ、数年後には少数ながらより優良な苗木の供給が期待できるようになった。また、近年ではコウヨウザンのような成長の早い早生樹も注目されている。

本研究では、成長の早い苗のコンテナ苗としての供給やそれを利用した低密度植栽、下刈り回数削減等、初期育林の体系化を目指す。また、コウヨウザンの異なる立地における成長特性を明らかにして、今後の早生樹造林に寄与する。

5 到達目標

- 1) 成長の早い苗木の1年生山出しコンテナ苗の育苗技術を構築する
- 2) 成長の早い苗木を利用した初期育林の体系化を行う
- 3) 早生樹の植栽適地を明らかにする

6 研究年次計画

試 験 計 画		担当者
試験項目・試験内容	試験年度	
成長のよい苗木のコンテナ育苗 1) 母樹ごとに採種した特定母樹のコンテナ育苗 2) コウヨウザンのコンテナ育苗	R元～R5	森林経営課 藤本浩平 渡辺直史 山崎敏彦
コンテナ苗の低コスト化 1) グルタチオンを用いた早期育苗の検討 2) 得苗率を向上させる育苗方法の検討 3) コンテナ苗育苗・植栽・保育のコスト評価	R2～R5	
特定母樹とコウヨウザンの植栽試験 1) 特定母樹の成長特性 2) コウヨウザンの成長特性	R元～R5	
下刈り省略の除伐への影響 1) 除伐工期と除伐後の成長	R元～R5	

7 当年度研究実施計画

- 1) コウヨウザン種子の冷凍保存を検討する
- 2) 精英樹の初期成長データを取得する
- 3) 特定母樹コンテナ苗の育苗データを取得する
- 4) コウヨウザンを植栽し、初期成長のデータを取得する
- 5) 下刈り省略試験地において、省略度合いによる除伐の必要性を評価する